

がんばろう日本！ がんばろう松小！
今 自分に出来る事



校長 横山 謙治

3月11日。東日本大震災で亡くなられた方たちのご冥福をお祈りし被災された方々の悲しみの大きさとその深さに心からのお見舞いを申し上げます。

今でもあの映像を正面から見られません。テレビの画面を通じて見たあの日の光景に、私たちが積み重ねてきたと思いこんできたものを根こそぎ奪い取られ、心の底からグラグラ大きく揺さぶられる畏（おそ）れを感じました。そして、マスコミを通じて報道される試練に耐え、希望に立って未来を見つめておられる東北の方たちの姿に自分自身を振り返ります。「今 自分に出来ることは何か」

本校でも児童会が直ぐに動き数日のうちに義援金が十六万円以上も集まりました。ご協力ありがとうございました。また、行事（儀式）の時には黙祷を捧げ、出来る限り悲しみを共有し、被災者の復興への強い思いと願いに学ぼうとしてきています。家庭でも様々な話を重ねていただいているので、「校長先生、こうしたらどうかな」と話しかけてくる子も少なくありませんでした。真剣なまなざしに胸が熱くなりました。

今回の災害は私たちのものの考え方や生き方を見直す大きな契機（けいき：きっかけ）になると考えています。学校が「知識」として伝えるものだけでは解けない問題が提示されていると思います。それは、未来をどうするかという問題です。私たちもそうですが、子ども達やまたその子ども達をどのような社会で育てるかという問題だと考えています。

未来は今の続きでしかありません。今をどう生きるかを抜かして未来はきません。子ども達の「夢」を実現させるためにも一つ一つの授業や活動を大切にしていけます。家庭でもささやかなことこそ大事にしていただければと思います。

新聞に毎日亡くなられた方のお名前が載ります。高齢の方が多いのが心痛みます。自然豊かな東北の地で自然に還られた方達。私たちを、私たちの行く末を見守っていただきたいと切に祈ります。松永小学校PTA

「しおかぜ」（7月号）より